

## ボストン開発コミュニティ(BDC)主催第9回勉強会のご案内

ボストン開発コミュニティより 11 月の勉強会のご案内です。 今回の発表者は木村公一朗さん(JETRO アジア経済研究所/ブランドイス大学 客員研究員)と遠藤礼子さん(MIT 土木環境学部博士課程/BDC 副幹事)です。

当日、多くの皆様にお会いできることを楽しみにしています。

当日連絡先：宮内悠平 (617-767-1281)

日時：11月1日（土）17:00-19:00（終了後懇親会）

場所 : MIT E51-372

### 申し込みフォーム：

<https://docs.google.com/.../1TR52hMZ3gdXGR7Y.../viewform...>

(Ustream 配信も行います。ご希望の方はフォームにご記入ください。)

## 內容:

- ・ グローバル化と中国企業:木村公一朗さん(JETRO アジア経済研究所/ブランダイス大学 客員研究員)
  - ・ マラリア対策の現状と批判:フィールド経験から見えてくるもの:遠藤礼子さん(MIT 土木環境学部博士課程/BDC 副幹事)
  - ・ 講演会終了後、近くのレストラン(Champions)で懇親会を行います。

## タイトル: 「グローバル化と中国企業」

発表者: 木村 公一朗 (JETRO アジア経済研究所・研究員/ブランダイス大学・客員研究員)

専門は中国経済論。2005～07年、中国社会科学院・客員研究員。

グローバル化は発展途上国企業の成長にとってメリットをもたらすのでしょうか？ それともデメリットをもたらすのでしょうか？ 成長のカギはこれまで、先進国の技術が貿易・投資を通じて発展途上国へ伝播するのか否かにある、と考えられてきました。しかし、現実の中国企業を見ると、技術伝播が不完全であったとしても、外部企業の技術リソース（外部技術）や、地場企業としての優位性（ホーム・アドバンテージ）を活用することで、技術不足の問題をカバーしながら成長してきました。そこで本勉強会では、中国の主要産業のひとつであるエレクトロニクス産業を事例に、中国企業がどのように技術不足、外部技術、ホーム・アドバンテージのバランスをうまくとりながら成長してきたのかを振り返ることで、グローバル化が発展途上国企業の成長にあたえた影響を考えたいと思います。また、近年増加している中国企業の海外進出を事例に、中国企業がグローバル経済にあたえる影響や、さらなる成長の課題についても最後に考えてみたいと思います。

タイトル：「マラリア対策の現状と批判：フィールド経験から見えてくるもの」

発表者： 遠藤礼子(MIT 土木環境学部博士課程/BDC 副幹事)

長年のグローバルキャンペーンにも関わらず、アフリカでは、マラリアは未だに毎年 60 万人もの死者を出す脅威となっています。毎年 20 億ドルもの援助がマラリアの減少、予防に大きく貢献していることは間違いないありませんが、物事すべてそうであるように、その援助の形が完璧というわけではありません。本勉強会では、エンジニアがフィールド経験を通して感じる援助体制への失望、援助機関の進出による負の影響を紹介し、皆様と議論していきたいと思います。また、私自身がエチオピアとの 3 年間のコミュニケーションの中で経験した挫折と成長を共有し、援助に対するモチベーションを、皆様に再度考えてもらいたいと思います。